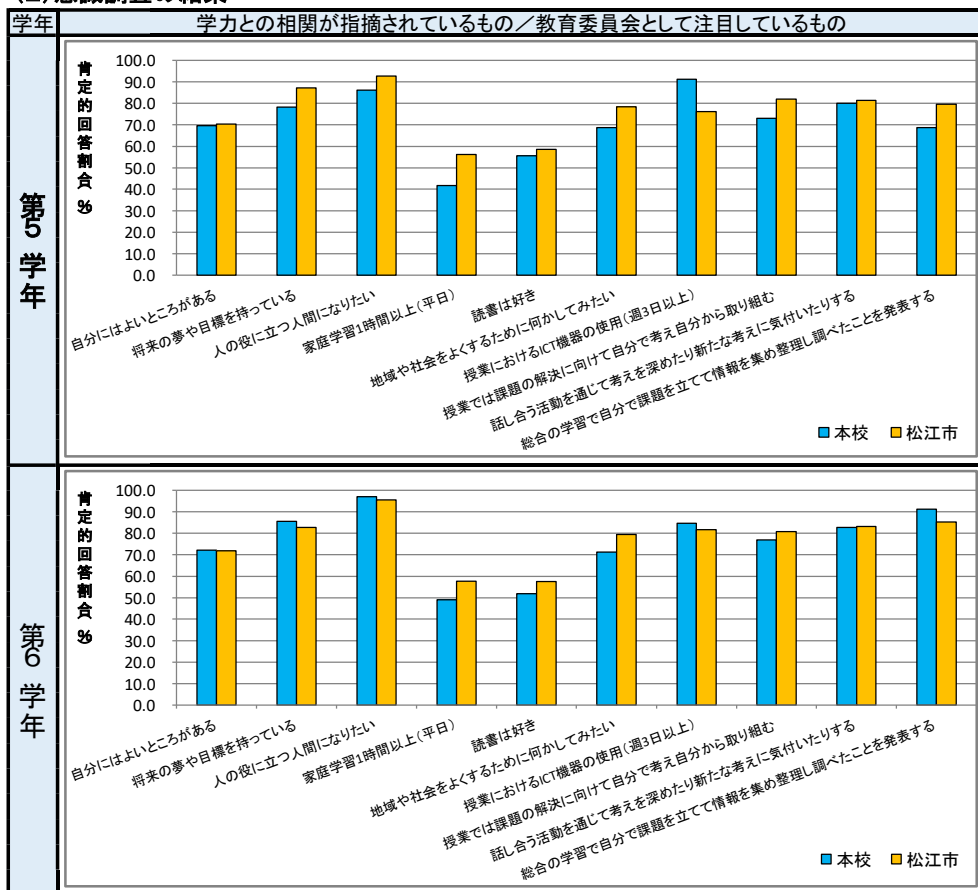


(1)教科調査の結果

学年	教科	分析(成果○/課題●)	改善策(一)
第5学年	国語	<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ○問いや文章中の表現から、共通点や要点となる言葉を見つけることができました。授業の中でタブレット等も活用しながら、互いの考えを共有できたり、友だちの意見をヒントにしなが問題解決への道筋を得たりすることができたことが起因していると考えられる。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ●問いや文章などの題意を正確に読み取ること。 ●文章を読み取った上で、題意に沿った文章を一から作り上げることに課題が見られた。 ●誤答や児童の解答結果から、児童の語彙が非常に限定的になっていること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・筆者の考えを簡潔にまとめたり、文章を要約したりする活動を通して、文章のまとめから正しく要旨や考えを読み取る力を育む。 ・目的、課題に沿った作文に取り組むことで、自ら文章を作り出す経験を積む。 ・繰り返し音読をしたり、平行読書に取り組んだりすることで、多様な語彙に触れる機会を増やす。
	算数	<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ○大問冒頭部の正答率が市町村や全国の数値を上回っていることから、基礎的な計算が定着していることが考えられる。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ●文章題の意味理解に課題が見られる。 ●「かけ算は増える、割り算は減る」といった、限定的な思考が見られたこと。 ●基礎的な内容であっても、文章が加わると対応できなかったこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実生活とのつながりを感じたり、問いの場面を具体的にイメージしたりする力を身に付けるために、教師の説明や児童間の学び合いの中で、具体例を用いたり、特定の場面を設定したりする機会を設ける。 ・適用問題や課題、家庭学習の中で、多様な問題を解く機会を設けることで、知識を様々な形で活用する経験を積む。
第6学年	国語	<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「話すこと・聞くこと」の領域は概ね全国値を超えていた。ペアやグループでの活動により、目的に応じた話し合いや、自分の立場を明確にした話し合いが定着したと考えられる。 ○「読むこと」の領域の説明文や物語文の読み取りも概ね全国値を超えていた。目的に応じた情報の読み取りや、自分の感想や意見をもつ力が定着していると考えられる。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ●「書くこと」の領域の正答率が低く、目的や意図に応じた文章を書く力に課題が見られる。 ●熟語や修飾語など言葉の特徴や使い方に課題が見られる。 ●文章中の情報を正しく読み取ったり、それらの情報を用いて考えたりすることに課題が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返りカードや日記、単元での作文の機会を活用して、作文の機会を増やす。 ・単元テストの短作文(思考問題)の問題を生かし、文章を書く経験を増やす。 ・図書館活用を促進して本に親しむ機会を増やし、語彙力を高めるようにする。 ・タブレット等での、言葉に関する適用問題に取り組む機会を増やし、関心・意欲を高めるようにする。
	算数	<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ○異なる文字を用いる式の中で、一方の文字から他方の文字の値を求めることは、よくできており、式の中における文字の意味を正しく理解することができていた。 ○分数倍を活用して、式の意味を説明する問いの正答率が全国推定値を上回っており、ペアやグループで説明しあう学習が成果として現れたのではないかと考えられる。 ○資料を整理する技能が身につけていると言える。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ●分数の計算については、約分や乗除混合の計算になると正答率が下がる。分数計算のきまりや「割る数と商の大きさの関係」の概念についての理解ができていない。 ●面積と体積については、三角柱の体積など、基本的な公式が理解できていないため正解できない場合が多かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・計算過程の可視化と習熟、分数の混合計算については、除法を乗法に直す手続きを徹底し、約分を途中で行うなどの「効率的でミスの少ない計算手順」を繰り返し練習する時間を設ける。 ・概念理解を深める算数的活動:「商の大きさ」や「比」などの抽象的な概念については、数直線や図、具体物を用いた操作活動を取り入れる。 ・図形の多角的な捉え方: 複合図形を分割・補完する「見方の工夫」を共有する。

(2)意識調査の結果



＜傾向と今後の対策、分析＞

成果○:強み/伸ばしたい点 について
課題●:弱み/改善を要する点 について

【第5学年】

- ICT機器を積極的に活用することができている。
- 家庭学習や読書に対する肯定的な解答が低かった。語彙を増やしたり、活用力を磨くためにも、取り組み方を工夫していく。

【第6学年】

- 自分自身の将来に対して、肯定的な考えをもっている児童が多い。
- ICT機器を活用したり、課題解決を行う学習に積極的に取り組んだりしている。
- 学習習慣を確立するためにも、家庭学習や読書に積極的に取り組んでいく。

【R7学力調査受検者数】

第5学年	115	名
第6学年	104	名

※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受検者数をもって表示